

主なオプション（追加）項目について

検査の内容は一般的なもので、健診機関により実施内容が異なる場合があります。詳細については、各健診機関にお問合せください。

	検 査 名	検 査 内 容						
あ	アディポネクチン検査 （肥満マーカー）	脂肪細胞から分泌されるアディポネクチンというホルモンの量を採血して測定します。 アディポネクチンは、内臓脂肪（胃や腸のまわりに付いている脂肪）が増えると下がります。逆に、内臓脂肪が減ると上がります。						
	アミノインデックス （A I C S）	血液中のアミノ酸濃度を測定し、がんになりやすいかどうかを調べる検査です。 1回の採血で複数のがんを同時に検査できます。 <table><tr><td>種 類</td><td>対象がん</td></tr><tr><td>男性5種</td><td>胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん</td></tr><tr><td>女性6種</td><td>胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、子宮がん、卵巣がん</td></tr></table> *35歳～39歳の方は、前立腺がんの評価対象外です。	種 類	対象がん	男性5種	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん	女性6種	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、子宮がん、卵巣がん
	種 類	対象がん						
	男性5種	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん						
女性6種	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、子宮がん、卵巣がん							
い	胃がん（カメラ）	胃内視鏡検査で、先端に小型カメラが付いている内視鏡を口等から挿入し、食道・胃・十二指腸の状態を調べます。						
	胃がんリスク検査	ピロリ菌感染の有無と、胃粘膜の委縮の程度を採血して測定し、胃がんになりやすい状態かどうかを分類します。						
え	H C V抗体検査	肝炎ウイルスのひとつであるC型肝炎ウイルスの検査で、採血して血清中のH C V抗体を測定し、C型肝炎の感染の有無を調べます。						
	H I V検査	エイズの原因ウイルスであるH I Vに感染しているか調べる検査です。血液検査でH I V抗体の有無を調べます。						
	H P V検査	子宮頸がんを引き起こすヒトパピローマウイルス感染の有無を調べます。子宮頸がん検診と同時に検査できます。						
か	喀痰細胞診	痰に交じった細胞を顕微鏡で確認し、がん細胞の有無を調べます。						
け	頸動脈エコー	エコーで血管壁を観察し、動脈硬化の有無を調べます。						
	血圧脈波（PWV・A B I）	両手・両足首の血圧を同時に測定し、動脈硬化の有無を調べます。						
こ	甲状腺がん検査	検査の種類には、診察（問診、視診、触診）・C T・MR I・血液・エコー・シンチグラフィー（放射線物質を服用または注射して行う検査）・X線等があり、甲状腺の状態を調べます。						
	甲状腺機能検査 甲状腺ホルモン検査	血液検査等により、甲状腺の働きや異常を調べます。						
	骨粗しょう症検査	レントゲンや超音波等により、骨密度を測定します。						
し	心臓病リスクマーカー （B N P）検査	心臓から分泌されるホルモン（B N P）を採血して測定し、心臓への負荷の有無や程度を調べます。						
	腫瘍マーカー （C A-19-9・A F P・C E A）	消化器系がんの検査です。体内に腫瘍ができると、腫瘍マーカーという物質が血液中に出現します。その腫瘍マーカーを採血して測定し、体の状態を調べます。						
す	睡眠時無呼吸検査	夜間睡眠中の脳波や呼吸状態、血中酸素濃度、心電図などを測定し、睡眠の深さを調べます。						
せ	前立腺がん（P S A）検査	血液中のP S A（前立腺特異抗原）値を測定し、前立腺の状態を調べます。						
た	大腸C T	内視鏡を使わない大腸検査のことで、大腸を炭酸ガスによって拡張させ、C T装置を用いて撮影し、大腸の状態を調べます。内視鏡検査と比べて苦痛が少ないと言われ、短時間で検査することができます。						
	大腸内視鏡検査	先端に小型カメラが付いている内視鏡を肛門から挿入し、大腸の状態を調べます。 検査を受ける人は、前日及び当日に下剤を飲んで、大腸の中をきれいにしておく必要があります。						
と	糖尿病ハイリスク検査	血液中のインスリン分泌量と抵抗性指数（H O M A－R）を測定し、インスリンが欠乏していないか、インスリン自体の作用に障害がないかを調べます。採血のみで検査ができます。						
な	内臓脂肪C T	X線C T装置を使い、臍の高さの腹部断面を撮影する検査で、内臓脂肪面積を測定します。						
の	脳MR I	強力な磁石でできた筒の中に入り、磁気の力を利用して、臓器や血管を撮影する検査です。脳出血や脳梗塞、動脈瘤等を見つけます。MR Iは、強力な磁場を扱う機械であるため、検査の際には確認事項や注意点（心臓ペースメーカーや人工内耳の有無等）がいくつかあります。						
は	肺がんC T	X線C T装置を使い、肺を輪切りにした画像を映し出す検査で、観察が困難な部位の病変や微細な病変を見つけ、肺の状態を調べます。						
ひ	ピロリ菌抗体検査	検査の種類は、尿素呼気試験法・抗体測定・糞便中抗原測定等があり、胃の中にいるピロリ菌を調べます。 内視鏡を使わない検査です。						
り	緑内障予防検査	緑内障の早期発見を目的とした検査です。 目薬で瞳を大きく開き視神経の状態などを確認するほか、目の表面に測定器具や空気などをあてる眼圧測定等により、緑内障の程度を調べます。						
ろ	ロックス・インデックス検査 （LOX-index検査）	脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを予測する検査です。 血液中にかくれている動脈硬化を引き起こす原因物質の量を調べます。						

上越医師会(上越地域総合健康管理センター)で冬期料金コースで実施しない項目

2つとも、人間ドック学会の必須検査項目ではなく、上越地域総合健康管理センターが標準コースにおいて独自にオプションで実施している検査項目の一部になります。

け	血清アミラーゼ	アミラーゼはおもに膵臓と唾液腺から分泌される消化酵素で、膵炎や膵臓がん等の膵臓の病気などを発見したり、経過を観察するための指標として用いられています。
り	RF(リウマチ因子)定量	リウマチ因子の有無を調べる検査で関節リウマチの診断に使われます。リウマチ因子とは、自己抗体といわれるもののひとつであって、関節リウマチや他の膠原病等の自己免疫疾患の方にみられるタンパク質の一種です。関節リウマチ患者さんの約80％が陽性となりますが、健康な方でも陽性となる場合があるため、この検査だけでは関節リウマチと判断されることはありません。